

活かしたい富山の宝! ものづくり総合見本市

富山県商工会連合会 会長

全国商工会連合会 会長 石澤 義文



グローバル経済が進展する中、日本の技術力、創造力を武器に大企業だけでなく中小・小規模企業も果敢に海外販路開拓にチャレンジする動きが加速している。

全国商工会連合会は、中小・小規模企業の海外販路開拓の足がかりをサポートするため、欧米では有力見本市への出展支援を行い、アジアでは中国、タイにアンテナショップを開設し商品PR・テスト販売・代理商談などの支援を行っている。

私も現地確認で各地を訪問したが、その現場最前線の印象を紹介することにする。

○ドイツ・フランクフルトでの見本市

欧州の見本市は長い歴史と伝統を誇り、確固とした文化となっている。成熟社会で豊かな生活スタイルを求めるトップレベルのトレンドが集結しており、自慢の新品を売り込むだけでなく、商品開発に向けた刺激を得る場にもなっている。

○米国・ニューヨークでの見本市

世界経済の中心らしく流行の最先端を求め世界中からバイヤーが集まり、まさに海外展開の玄関口。メディア注目度も高く、私もインタビューを受けた。情報発信地としてのパワーが抜群である。

○中国・上海のアンテナショップ

経済成長率が鈍化しているとはいえ、ビジネスチャンスをつかもうとする逞しい商魂、熱気があふれている。富裕層の購買意欲が旺盛で、高額な大吟醸日本酒が大人気。高品質・安心安全な日本製高級品を売り込むなら今が好機である。

○タイ・バンコクのアンテナショップ

戦後の日本の高度成長期を彷彿とさせるバンコク。21世紀の成長エンジンはアジアといわれるが、その代表格の勢いがある。アンテナショップの開設式にタイ国政府商務省の幹部が駆けつけるなど、日本商品に対する期待の高さがうかがえる。



タイ・バンコクにアンテナショップ開設

百聞は一見にしかず。また、これからのマーケットはアジア、私たちのすぐ近くである。

そんな中、わざわざ海外へ足を運ばなくとも海外展開のきっかけづくりに役立つ貴重なチャンスが富山にはある。それは、本年(2015年)4月に開催される「富山県ものづくり総合見本市2015」である。

このイベントは、平成11(1999)年10月、環日本海時代を展望する先駆的取り組みとして、中国・韓国・ロシア・モンゴルの北東アジア諸国のサプライヤーを招いての国際展示商談会「NEAR21(北東アジア経済交流EXPO)」を、開催したのが出発点。以来、サプライヤーだけでなくバイヤーも招く双方向取引の場とし、対象国を北東アジア諸国を中心としつつタイ、ベトナム、インドネシア、インドなどにも広げ、富山県の誇るものづくり技術をあわせてアピールする場とするなど回を重ねるごとに進化を続け、今や、地方発、日本海側随一の大規模イベントとなっている。私も実行委員会会長として微力を注いできた。

近くで手軽に国際ビジネスマッチングの現場に参加し見聞できる本事業は新たな出会いと発見のステージとなる、まさに富山の宝である。特に、高校生、大学生はじめ未来を担う若い人には、海外との取引シーンから国際ビジネスの息吹を肌で感じ、知恵と技の結晶“ものづくり”の魅力を体感してほしいものである。